

一般社団法人国際再生医療普及協会  
 特定認定再生医療等委員会議事要旨

日 時：2023年12月13日（水）16：45～16：50

開催場所：千葉大亥鼻イノベーションプラザ 1階会議室・web

	摘要	氏名	出欠	利益相反	
				医療機 関	委員会 設置者
1	再生医療等について十分な科学的知見 及び医療上の識見を有する者	石井 伊都子	×		
		鈴木 邦子	○	無	無
		齋藤 康 ※委員長	○	無	無
		落谷 孝広	○	無	無
		寺井 崇二	×		
		中林 正雄 ※技術専門員	○	無	無
		竹本 稔	○	無	無
		佐野 明彦	×		
		木田 泰之	○	無	無
		林 邦彦	○	無	無
2	医学又は医療分野における人権の尊重 に関して理解のある法律に関する専門 家又は生命倫理に関する見識を有する 者	中村 智広	○	無	無
		川上 祐美	○	無	無
3	一般の立場の者	宮内 明子	○	無	無
		中山 ちはる	×		

配付資料（事務局受領年月日；2023年11月24日）

資料1 別紙様式第三 再生医療等提供状況定期報告書 2023年11月24日

資料2 疾病等報告別紙

一般社団法人国際再生医療普及協会特定認定再生医療等委員会規則第6条第3項の定めにより、齋藤委員長は議長となり、本委員会の開会を宣言し、本日の出席委員を報告した。また、審議に必要な法定の成立要件を充足している旨を述べた。

審査：定期報告

医療機関：医療法人龍志会 IGT クリニック

管理者：堀 篤史

議題：悪性腫瘍に対する $\alpha\beta$ T細胞の静脈投与による免疫細胞療法

結果：適

IGT クリニック 堀篤史医師より、定期報告について説明された。

当該期間には3症例実施された。うち1例において、細胞投与後に発熱と肺炎が出現した。細胞投与翌日から微熱があり、投与2日後他院での治療検査にて肺炎疑いの診断となった。抗生剤投薬により、2週間で改善した。なお、本治療は、入院の必要なしと判断され外来受診のみの治療であった。

発熱は免疫細胞投与の副反応として疑われるが、肺炎は治療経過から細菌性と考えられ、免疫細胞との因果関係を否定はできないが関連性は低いと考えられた。

他の患者(2例)には有害事象は発生していない。治療効果については患者スケジュール等によりQOL評価などのデータがそろっていないため、今後報告される。

特記すべき質疑はなかった。

審議の結果、本提供計画を継続することに問題ないとのことで、参加委員全員の意見の一致を以って「適」とした。

以上